

[3] 母校日より

(1) 京都大学地球系教室及び関係教室の近況

(a) 社会基盤工学専攻・都市社会工学専攻・土木工学コースの近況報告

都市社会工学専攻専攻長、土木工学コース長 山田 忠史

令和3年度の都市社会工学専攻の専攻長を仰せつかっております。平成4年学部卒、平成6年修士課程修了の山田忠史と申します。本年度は、工学部地球工学科土木工学コースのコース長も担当させていただいております（なお、令和3年度の社会基盤工学専攻の専攻長は、資源系の塚田和彦教授）。



学部および大学院の土木系教室の近況を報告させていただきます。はじめに、表1に示しますように、土木系教員の在籍状況について説明いたします。土木系の研究室は、工学研究科社会基盤工学専攻に20研究室、都市社会工学専攻に17研究室、学術情報メディアセンターに1研究室、地球環境学堂に1研究室、情報学研究科に3研究室、計42研究室、96名の教員から構成されています。特定教員、特任教員やJSPS特別研究員も含めると、たいへん大きな組織となっております。

表2は、令和2年11月から3年6月までの人事異動をまとめたものです。中川一教授と細田尚教授が、令和3年3月末日で定年退職を迎えられました。木元小百合准教授が大阪産業大学工学部都市創造工学科教授に、野原大督助教が鹿島建設株式会社技術研究所の主任研究員に、橋本勝文特定准教授が北海道大学大学院工学研究院准教授に、大友有特定助教が本学国際戦略本部特定専門業務職員に、それぞれ異動されました。ご在任中に賜りましたご厚情とご指導に対しまして、心より御礼を申し上げますとともに、ご退職やご異動後の末ながいご多幸をお祈り申し上げます。新規採用につきましては、藤見俊夫准教授、小谷仁務助教、小坂田ゆかり助教、田中皓介助教、渡部哲史特定准教授、Amin CHABCHOUB特定准教授、呉映昕特定准教授、山本浩大特定助教、Eva Mia Siska YAMAMOTO特定助教が着

表1 土木系講座・分野の教員の在籍状況（令和3年6月30日現在）

社会基盤工学専攻

講座名	分野名	教授	准教授・講師	助教
応用力学			西藤 潤, KHAYYER, Abbas	田中 智大 ⁺
構造工学	構造材料学	山本 貴士 [*]		
	構造力学	杉浦 邦征 ⁺	北根 安雄	五井 良直
	橋梁工学	八木 知己		野口 恭平
	構造ダイナミクス	高橋 良和	安 琳	植村 佳大
	国際環境基盤マネジメント		金 善玟, 張 凱淳	
水工学	水理環境ダイナミクス	戸田 圭一 [*]	山上 路生	岡本 隆明
	水文・水資源学	立川 康人	市川 温, 萬 和明 ^{**}	
地盤工学	地盤力学	木村 亮		木戸隆之祐
	社会基盤創造工学	金 哲佑		
空間情報学		宇野 伸宏		木村 優介
都市基盤設計学	景観設計学	川崎 雅史	山口 敬太	
	沿岸都市設計学	後藤 仁志	原田 英治 ⁺	五十里洋行, 清水 裕真
防災工学 (防災研究所)	砂防工学	藤田 正治	竹林 洋史, 宮田 秀介	
	防災水工学	川池 健司		山野井一輝
	地盤防災工学	渦岡 良介		上田 恭平
	水文気象工学	中北 英一	山口 弘誠	小坂田ゆかり
	海岸防災工学	森 信人	志村 智也	宮下 卓也
	防災技術政策		佐山 敬洋, FLORENCE, Lahournat	
	水際地盤学	平石 哲也	馬場 康之 ⁺⁺	

*：経営管理大学院併任，⁺：地球環境学堂併任，**：工学基盤教育研究センター，⁺⁺：白浜海象観測所

都市社会工学専攻

講座名	分野名	教授	准教授・講師	助教
構造物マネジメント工学		高橋 良和 (兼担)		高谷 哲
地震ライフライン工学		清野 純史	古川 愛子	
河川流域マネジメント工学			音田慎一郎	
ジオマネジメント工学	土木施工システム工学	肥後 陽介 *	PIPATPONGSA, Thirapong	
	ジオフロントシステム工学	三村 衛		澤田 菜伊
	国際都市開発		QURESHI, Ali Gul	
都市社会計画学	計画マネジメント論	須崎 純一	松島 格也	小谷 仁務
	都市地域計画		松中 亮治, 大庭 哲治 *	田中 皓介
都市基盤システム工学		岸田 潔	澤村 康生	宮崎 祐輔
交通マネジメント工学	交通情報工学	山田 忠史 *	SCHMOECKER, Jan-Dirk	中尾 聡史
	交通行動システム	藤井 聡		川端祐一郎
都市国土管理工学 (協力講座)	耐震基礎	澤田 純男	後藤 浩之	
	地域水環境システム	田中 茂信	田中 賢治	
	水文循環工学	堀 智晴		
	災害リスクマネジメント	CRUZ Ana Maria	横松 宗太	
	自然・社会環境防災計画学	角 哲也	竹門 康弘, KANTOUSH, Sameh Ahmed	
	都市耐水	五十嵐 晃	米山 望	

* : 経営管理大学院併任

学術情報メディアセンター

講座名	分野名	教授	准教授・講師	助教
計算工学 (学術情報メディアセンター)		牛嶋 省		鳥生 大祐

地球環境学堂

講座名	分野名	教授	准教授・講師	助教
社会基盤親和技术論		勝見 武	高井 敦史	

情報学研究科 社会情報学専攻

講座名	分野名	教授	准教授・講師	助教
社会防災	防災社会システム	多々納裕一	SAMADDAR, Subhajyoti 藤見 俊夫	
地域・防災情報システム学 (防災研究所)	巨大災害過程	矢守 克也	大西 正光	中野 元太
	災害情報システム	畑山 満則	廣井 慧	

表2 土木系教員人事異動 (令和2年11月~令和3年6月)

●退職				
社会基盤工学専攻				
R3.1.31	大友 有 特定助教	(大学の世界展開力強化事業) ⇒ 国際戦略本部 特定専門業務職員へ		
R3.3.31	中川 一 教授	(防災工学講座 防災水工学分野 (防災研究所)) ⇒ 定年退職		
	木元 小百合 准教授	(地盤力学講座 地盤力学分野, 経営管理大学院) ⇒ 大阪産業大学工学部都市創造工学科 教授へ		
R3.6.30	橋本 勝文 特定准教授	(インフラ先端技術産学共同講座) ⇒ 北海道大学大学院工学研究院 准教授へ		
都市社会工学専攻				
R.3.3.31	細田 尚 教授	(河川流域マネジメント工学講座) ⇒ 定年退職		
	野原 大督 助教	都市国土管理工学講座 水文循環工学分野 (防災研究所) ⇒ 鹿島建設(株)技術研究所サスティナブルソサエティラボグループ 主任研究員へ		

●採用		
社会基盤工学専攻		
R3.4.1	R3.4.1CHABCHOUB, Amin 特定准教授	(防災工学講座 海岸防災工学 (防災研究所), 白眉センター) シドニー大学土木工学研究科 准教授より
	小坂田 ゆかり 助教	(防災工学講座 水文気象工学分野 (防災研究所)) 博士後期課程より
	渡部 哲史 特定准教授	(防災工学講座 水文気象工学分野 (防災研究所)) 東京大学大学院工学系研究科 特任講師より
R3.6.1	YAMAMOTO, Eva Mia Siska 特定助教	(防災工学講座 防災技術政策分野 (防災研究所)) 防災研究所 研究員より
都市社会工学専攻		
R3.4.1	小谷 仁務 助教	(都市社会計画学講座 計画マネジメント論分野) 東京大学大学院工学系研究科 助教より
R3.6.1	田中 皓介 助教	(都市社会計画学講座 都市地域計画分野) 東京理科大学理工学部土木工学科 助教より
防災研究所		
R2.11.1	呉 映昕 特定准教授	(気象・水象災害研究部門 気象水文リスク情報 (日本気象協会) 研究分野) 防災研究所 特定研究員より
R3.4.1	藤見 俊夫 准教授	(社会防災研究部門 防災社会システム研究分野) 熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター 准教授より
	山本 浩大 特定助教	(気象・水象災害研究部門 気象水文リスク情報 (日本気象協会) 研究分野) 博士後期課程より
●昇任		
社会基盤工学専攻		
R3.4.1	宮田 秀介 准教授	(防災工学講座 砂防工学分野 (防災研究所)) 同分野 助教より
R3.6.1	川池 健司 教授	(防災工学講座 防災水工学分野 (防災研究所)) 同分野 准教授より
都市社会工学専攻		
R2.12.1	須崎 純一 教授	(都市社会計画学講座 計画マネジメント論分野) 空間情報学講座 准教授より
R3.3.1	肥後 陽介 教授	(ジオマネジメント工学講座 土木施工システム工学分野) 同講座ジオフロントシステム工学分野 准教授より
●配置換		
都市社会工学専攻		
R3.4.1	肥後 陽介 教授	(経営管理大学院 (ダブルアポイントメント)) ジオマネジメント工学講座土木施工システム工学分野 教授より

任されました。また、須崎純一教授、肥後陽介教授、川池健司教授、宮田秀介准教授が昇任されました。肥後陽介教授は、令和3年4月1日付けで、本学大学院経営管理研究部(経営管理大学院)に配置換えとなっております。

つぎに、土木系学生の就職状況について報告いたします。令和元年度と2年度の就職先人数を、分野別に示したものが表3です。令和2年度は、コロナ禍での就職活動となりました。令和元年度と比較すると、内閣・各府省、コンサルタント・設計、商社・銀行、不動産に増加傾向が、地方庁、電気・ガス・水道、鉄道・航空、建設、鉄鋼・機械等に減少傾向が、それぞれ見られます。しかし、全体的には、大きな変化は生じておりません。幸いにも、コロナ禍の影響は、顕著には見られない結果となりました。今後も、学生の就職活動におきまして、京土会ならびに卒業生の皆様にご

協力をお願いすることもあろうかと存じますが、その節には、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

続いて、工学部地球工学科国際コースの状況について報告いたします。なお、本年度の国際コース長は、高橋良和教授が担当されております。国際コースは、平成23年度に1期生が入学して以来、10年が経過しました。これまで、留学生97名、日本人77名の計174名の学生を受け入れてきました。入試の開催や学生の来日が難しい状況の中、創意工夫のうえ、本年度も、中国、スリランカ、インドネシアから7名の留学生を迎え入れております。令和2年度と比較して、本年度は、一時的に状況が好転したとはいえ、コロナ禍の影響は避けられず、渡日できずに母国にて遠隔講義を受講する学生がおります。また、学生を国内外の現場にてお受けいただくこと、特に海外に学生を送り出すことは

表3 土木系学生の就職状況 (R1: 令和元年度, R2: 令和2年度)

就職先/年度	学部		修士		博士		合計	
	R1	R2	R1	R2	R1	R2	R1	R2
内閣・各府省			5	9			5	9
独立行政法人・団体			4	3		1	4	4
学校							0	0
地方庁		1	4				4	1
道路			6	6			6	6
電気・ガス・水道			15	11			15	11
鉄道・航空	1		14	10			15	10
建設	4	1	15	13	1	1	20	15
鉄鋼・鉄構・機械・プラント・石油・造船	1		15	9			16	9
コンサルタント・設計	1	2	14	21			15	23
商社・銀行	1	1	2	5			3	6
情報通信・電機・電子・システム	1		8	11	1		10	11
不動産		1	1	2			1	3
サービス業・その他	2	2	7	5			9	7
合計	11	8	110	105	2	2	123	115

極めて難しく、国際インターンシップは中止となりました。さらに、多人数での対面での交流は望ましくないことから、「京都大学工学部地球工学科国際コース奨学基金、および、インターンシップにご支援いただいている皆さんと教員・学生の交流会」も中止の予定です。対面でお伝えすることは叶いませんが、学生のインターンシップ（学外実習）の受け入れにつきましては、京土会ならびに卒業生の皆様に多大なご助力を頂いており、多くの国内外の現場への派遣が実現しております。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

土木系教室では、国際コース以外にも、国際化への取り組みを継続的に続けております。国際的に活躍できる人材の育成と大学教育の世界展開力の強化を目指し、日本人学生の海外留学と外国人学生の戦略的受入を行う事業を、平成23年度から継続して行っております。平成23～27年度は「強靱な国づくりを担う国際人育成のための中核拠点の形成」において、その基盤を構築し、平成28～令和2年度は、「気象変動下でのレジリエントな社会発展を担う国際インフラ人材教育プログラム」において、その実践を強化してまいりました。コロナ禍の影響があるものの、本年度以降も、国際交流インターンシッププログラムや国際交流オンラインプログラムを実施して、その継続を図ってまいります。

学部・大学院の講義については、対面講義への復帰を試みてはありますが、令和2年度と同様に、本年度もオンライン講義（遠隔講義）が中心となっております。オンライン講義には、ビデオ会議システムzoomが活用され、講義資料の配付やレポート課題の提出・受取には、本学の学習支援サービスPandAが活用されています。PandAは、コロナ禍以前から存在していましたが、コロナ禍を契機に、その

存在と活用方法が学内に広く認知され、対面とオンラインの双方を活用したハイブリッド型授業においても、その有効活用が期待されております。一方で、オンライン講義が卓越しますと、特に新入生において、同級生との交流や充実したキャンパスライフを送ることがままならず、孤独感や孤立感を感じている学生がおります。学生の心のケアにも気を配りつつ、できるだけコロナ禍以前と同じレベルの教育・研究ができるように努めております。

最後に、本学の経営管理大学院では、土木系教室の教員（表1参照）が、工学と併任しながら、「国際的な大規模プロジェクト、新規技術開発、情報システム開発などにおいて、国際的な感覚と多様な経営能力を持ったプロジェクトマネージャーを育成する」プログラムに従事しております。経営管理大学院は、国際化や文理融合に先進的に取り組んでいる部局であり、いわゆるビジネススクールでもあります。土木分野のフロンティア拡大を目指しながら、土木系教員が日々活動しております。なお、令和2年度から、戸田圭一教授が、経営管理大学院長（経営管理研究部長）を務められております。

世界展開力強化や経営管理大学院などの土木系教室の新たな取り組みにおいて、ならびに、学部や大学院の平素の教育・研究や、それらがコロナ禍の難局を乗り越えることにおいて、京土会ならびに卒業生の皆様に、多大で多様なご助力とご指導をお願い申し上げることもあろうかと存じます。これまでのご協力とご貢献に対しまして、重ねて御礼申し上げますとともに、今後とも引き続き、土木系教室の教育・研究活動にご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

(b) 都市環境工学専攻の近況報告

都市環境工学専攻長 伊藤 禎彦

都市環境工学専攻の近況について報告させていただきます。本年度、都市環境工学専攻の専攻長を仰せつかっております59年衛生卒の伊藤と申します。よろしくお願いたします。



恒例によりまして、人事異動についてご報告申し上げます。まず、退職・転出としましては、令和3年2月に窪田卓見助教が、物質環境工学講座放射能環境動態工学分野より環境安全保健機構放射線管理部門（原子核工学専攻）へ異動しています。令和3年3月31日付けにて、物質環境工学講

座環境保全工学分野の酒井伸一教授、物質環境工学講座環境質予見分野の田中宏明教授、地球環境学堂環境調和型産業論分野の藤井滋穂教授の3名の先生方が定年退職されました。長年にわたるご功績とご貢献に対しまして深く感謝申し上げます。同じく、3月31日付けにて、環境デザイン工学講座の藤森崇助教が、龍谷大学先端理工学部准教授へ、また、附属流域圏総合環境質研究センター環境質予見分野HE Kai特定助教が、中国の中山大学土木工程学院准教授へ、それぞれ転出されました。採用では、4月1日高知大学より藤原拓先生が環境システム工学講座水環境工学分野教授へ、高分子化学専攻博士後期課程学生であった石川良賀先生が環境衛生学講座特定助教へ、それぞれ採用されています。昇任では、令和2年10月に、環境安全保健機構安全管理部門准教授であった松井康人先生が教授に、令和3年4月1日には、都市衛生工学分野准教授であった越後信哉先生が地球環境学堂地球親和技术学廊環境調和型産業論分野教授に、物質環境工学講座環境保全工学分野准教授であった平井康宏先生が教授に、それぞれ昇任されています。

これらの人事異動によりまして、現在の都市環境工学専攻関連の教員一覧はこの表1のようになっております。14の研究室で構成しており、桂キャンパスの6研究室、大津市、琵琶湖のほとりにあります流域圏総合環境質研究センターの2研究室、吉田キャンパス内の環境安全保健機構の2研究室、さらに、大阪府熊取町にあります複合原子力科学研究

表1 環境工学コース関連研究室教員名簿

大学院	専攻	講座名	分野名	教授	准教授	講師	助教*
工学研究科	都市環境工学	環境デザイン工学(桂)		高岡 昌輝	大下 和徹		日下部武敏
		環境衛生学(桂)**		高野 裕久	上田 佳代		本田 晶子 石川 良賀
		環境システム工学(桂)	水環境工学	藤原 拓		日高 平	
			環境リスク工学	米田 稔	島田 洋子		五味 良太
			大気・熱環境工学		藤森真一郎		大城 賢
			都市衛生工学	伊藤 禎彦			中西 智宏
		物質環境工学	環境質管理(流環)	清水 芳久	松田 知成		
			環境質予見(流環)		西村 文武	中田 典秀	井原 賢 竹内 悠
			環境保全工学(環保)	平井 康宏			矢野 順也
			安全衛生工学(環保)	橋本 訓 松井 康人			
			放射能環境動態(原研)		藤川 陽子		
			放射性廃棄物管理(原研)		福谷 哲		池上麻衣子 芝原 雄司
地球環境学大学院	地球親和技术学廊	環境調和型産業論(吉田)	越後 信哉	田中 周平			
エネルギー科学研究科	エネルギー社会・環境科学	エネルギー社会環境学	エネルギー環境学(吉田)	亀田 貴之			山本 浩平




(桂)：桂キャンパスCクラスター (吉田)：吉田キャンパス (流環)：工学研究科附属流域圏総合環境質研究センター (大津) (環保)：京都大学環境安全保健機構 (吉田) (原研)：京都大学複合原子力科学研究所 (熊取)
*：特定助教を含む、**：地球環境学堂との兼任

所内の2研究室が都市環境工学専攻を構成しております。さらに、この吉田キャンパス内にごございます地球環境学堂に所属しております環境調和型産業論分野およびエネルギー科学研究科のエネルギー環境学分野を合わせ、14研究室、34名の教員で活動しております。

特に、4名の新任教授が誕生しており、若返りを果たさせていただいていると申し上げてよろしいかと思えます。一方、8年間計画で進められてきた定員削減が今年度で終了を迎えています。この結果、地球環境学堂流動分野を除く桂の5研究室、および大津の流域圏総合環境質研究センターの2研究室の合計7研究室の定員が、6-6-6(教授-准教授-講師-助教)の体制に完全に移行いたしました。今後はこの陣容に見合った運営が求められる状況になってきております。これらの研究室は京土会の皆さまよりご支援を賜りまして、順調に発展を遂げてまいりました。ここに改めて心より感謝申し上げますとともに、引き続き、ご支援のほどをよろしくお願いいたします。

つぎに、当専攻の近況のひとつとして、アジアを中心とした国際的活動の現況を紹介申し上げます(表2)。中国・深圳拠点オフィスを清華大学深圳キャンパスに、マレーシア拠点オフィスをマラヤ大学に、ベトナム・ハノイ拠点オフィスをハノイ理工科大学に、タイ・バンコク拠点オフィスをマヒドン大学に置いて活動を継続し、優秀な留学生の獲得や学生の国際交流に役立てております。このうち、中国・深圳拠点オフィスおよび、タイ・バンコク拠点オフィスは、2018年に京都大学オンサイトラボラトリーとして認定され、発展しております。また、修士課程ダブルディグリープログラムが地球環境学堂と清華大学深圳国際研究生院との間で進められてきましたが、本年度からは工学研究科との間でも始まることになっております。いずれもコロナ禍のために、このような国際交流は制約を余儀なくされているところではありますが、オンライン会議などによって活発な交流自体は継続しているところです。

表2 都市環境工学専攻の国際活動

都市環境工学専攻近況	
<p>中国・深圳拠点オフィス (清華大学深圳キャンパス) 2005年開設。2012年度のGCOEやEML終了後も民間企業からの寄付やワイルド&ワイズ経費等で維持。クロスアポ教員(助教)と事務員を配置。共同学位プログラムを開始。平成30年度京都大学からオンサイトラボラトリーとして認定。</p>	
<p>マレーシア拠点オフィス (マラヤ大学) 2010年開設。JSPSアジア研究教育拠点事業「リスク評価に基づくアジア型統合的流域管理のための研究教育拠点」(2011年度~2015年度)、JSPS二国間交流事業(2017~2019年度)。</p>	
<p>ベトナム・ハノイ拠点オフィス (ハノイ理工科大学) 2008年開設。2012年度のGCOEやEML終了後も学堂を中心とした全学経費や概算要求特別経費などで維持。</p>	
<p>タイ・バンコク拠点オフィス (マヒドン大学) 2016年開設。2015~2018年度の概算要求「イノベータ」事業を契機に設置。クロスアポ教員(特定准教授)と事務員を配置し、共同学位プログラムを推進。平成30年度京都大学からオンサイトラボラトリーとして認定。</p>	

最後に就職状況についてご報告申し上げます。昨年度卒業、修了生は41名でした。その内訳を表3に一覧として示しておりますが、地方公務員2名以下、このような就職先となっております。環境産業とは別分野への就職も増えており、多様化しているように思われます。なお、コロナ禍の影響がこのような就職先に現れているようにはみえません。令和3年度の卒業・修了予定者の就職につきましてはほぼ終了していると認識しておりますが、引き続きご高配を賜りますようお願いいたします。

表3 令和2年度就職先一覧

令和2年度卒業・修了生の進路
就職した卒業・修了生：41名
公務員：和歌山県、大阪市
民間：
大和ハウス工業、日本メンテナンスエンジニアリング(2)、JR東日本、遠藤科学、日立造船、双日、日本総研、三菱UFJ銀行、ユナイテッド、レイス、いい生活、飛鳥建設、三菱電機、wking、旭化成、日立製作所、富士通、日本工営、JFEエンジニアリング、パナソニック(2)、クボタ、アサヒビール、電源開発、中国上海同済設計院、EYストラテジー・アンド・コンサルティング(2)、日本マイクロソフト、日本マクドナルド、野村不動産、東洋エンジニアリング、タクマ、日本貨物鉄道、ブレインズテクノロジー、日本テレビ、鴻池組、エイト日本技術開発

以上、都市環境工学専攻の近況を簡単にご報告させていただきました。引き続き、ご鞭撻ならびにご支援いただきますようお願いいたします。

(2) 人事異動 (令和2年10月～令和3年10月)

(職名は異動後の職名, 但し () 内は異動前の職名)

【社会基盤工学専攻】

R3.3.31	中川 一	(教授)	定年退職
R3.3.31	木元小百合	(准教授)	辞職 (大阪産業大学工学部都市創造工学科教授へ)
R3.4.1	小坂田ゆかり	助教	新規採用
R3.4.1	宮田 秀介	准教授	防災工学講座(協力講座)砂防工学分野助教より昇任
R3.6.1	川池 健司	教授	防災工学講座(協力講座)防災水工学分野准教授より昇任
R3.6.1	山本 貴士	教授	構造工学講座構造材料学分野と経営管理研究部の併任へ配置換
R3.6.1	YAMAMOTO, Eva Mía Siska	特定助教	新規採用
R3.6.30	橋本 勝文	(特定准教授)	辞職 (北海道大学大学院工学研究院准教授へ)
R3.7.1	横山 勇氣	特定研究員	新規採用

【都市社会工学専攻】

R2.12.1	須崎 純一	教授	社会基盤工学専攻空間情報工学講座准教授より都市社会計画学講座計画マネジメント論分野教授へ配置換・昇任
R3.3.1	肥後 陽介	教授	ジオフロントシステム工学分野准教授より土木施工システム工学分野教授へ昇任
R3.3.31	細田 尚	(教授)	定年退職
R3.3.31	野原 大督	(助教)	辞職 (鹿島建設技術研究所サステイナブルソーサエティラボグループ主任研究員へ)
R3.4.1	小谷 仁務	助教	新規採用
R3.4.1	肥後 陽介	教授	土木施工システム工学分野と経営管理研究部の併任へ配置換
R3.6.1	田中 皓介	助教	新規採用

【都市環境工学専攻】

R2.10.1	松井 康人	教授	物質環境工学講座(協力講座)安全衛生工学分野准教授より昇任
R3.2.1	窪田 卓見	(助教)	放射線環境動態工学分野より環境安全保険機構放射線管理部門(原子核工学専攻)へ異動
R3.3.31	酒井 伸一	(教授)	定年退職
R3.3.31	田中 宏明	(教授)	定年退職

R3.3.31	藤森 崇	(助教)	辞職 (龍谷大学先端理工学部准教授へ)
R3.4.1	藤原 拓	教授	新規採用
R3.4.1	藤見 俊夫	准教授	新規採用
R3.4.1	石川 良賀	特定助教	新規採用
R3.4.1	平井 康宏	教授	物質環境工学講座(協力講座)環境保全工学分野准教授より昇任
R3.7.1	ZHAO, Bo	特定助教	新規採用
R3.8.1	野村 洋平	助教	新規採用
R3.9.30	上田 佳代	(准教授)	辞職 (北海道大学大学院医学研究院社会医学分野衛生学教室へ)
R3.9.30	井原 賢	(特定助教)	辞職 (高知大学農林海洋科学部林資源環境科学科生産環境管理学領域へ)
R3.10.1	加藤 智大	助教	新規採用
R3.10.1	MEEMA, Thatkiat	特定研究員	新規採用

【地球環境学専攻】

R3.3.31	藤井 滋穂	(教授)	定年退職
R3.4.1	越後 信哉	教授	都市環境工学環境システム工学講座都市衛生工学分野准教授より地球環境学専攻環境調和型産業論分野教授へ配置換・昇任

【地球系事務室】

R3.3.31	中川千恵子	事務補佐員	退職
R3.3.31	大鋸 典代	事務補佐員	退職
R3.3.31	前田 恵里	事務補佐員	辞職
R3.4.1	古田 英明	掛長	国際日本文化研究センター管理部研究協力課事業係長より桂地区総務課掛長(Cクラスター事務区庶務掛)へ配置換
R3.4.1	宮内 友則	掛長	桂地区総務課掛長(Cクラスター事務区庶務掛)から北部構内総務課掛長(生態学研究センター総務掛)へ配置換
R3.4.1	西脇 美和	事務職員	法学研究科(公共政策大学院掛)より桂地区教務課(教務掛(地球工学科))へ配置換
R3.4.1	泉 恵子	主任	桂地区教務課主任(教務掛(地球工学科))より教育推進・学生支援部学生課主任(奨学掛)へ配置換
R3.4.1	平井 睦美	事務補佐員	新規採用(Cクラスター事務区教務掛)
R3.4.16	武田 眞千	事務補佐員	新規採用(地球工学科学科長秘書)
R3.5.1	内野 桂子	事務補佐員	新規採用(地球工学科事務室)

(3) 学位授与 (令和2年11月24日～令和3年9月24日)

(課程博士)

安藤 圭	R2.11.24	衝撃波圧を考慮した構造物の耐津波設計法の提案	Try Sophal	R3.3.23	Impact of Climate Change on Flood Inundation in the Lower Mekong Basin Considering Various Sources of Climate Outputs (様々な気候変動予測を用いたメコン川下流域の氾濫への気候変動影響)
周 心怡	R2.11.24	Manganese Accumulation and its Control in Chlorinated Drinking Water Distribution System (塩素処理された水道配水システムにおけるマンガンの蓄積性とその制御)	塩見 謙介	R3.3.23	巨大地震における部材破断を考慮した機械支持架構の耐震性能評価に関する研究
青木健太郎	R3.1.25	大規模洪水時の河床変動特性と水害防備林の効果を考慮した治水計画に関する研究	Dina ELLEITHY	R3.3.23	Impact of Physical Clogging Due to Sedimentation on Soil and Reservoir Hydraulic Performance (堆砂による物理的目詰まりが土壌と貯水池の水理的性能に及ぼす影響)
桑原 昌広	R3.1.25	公共交通連携性を考慮したワンウェイ型カーシェアリングの実用的評価手法	李 孟桐	R3.3.23	An intelligent flood evacuation model based on deep learning of various flood scenarios (様々な洪水シナリオに対する深層学習に基づく水害避難行動モデル)
田中 和広	R3.3.23	高潮・3次元海浜流および漂砂の解析モデルの構築と実用化に関する研究	Bonjun Koo	R3.3.23	Towards Public Participation for Effective Air Pollution Risk Management : Case Studies from Mongolia and Iceland (効果的な大気汚染リスクマネジメントのための住民参加に向けて:モンゴルとアイスランドの事例から)
小坂田ゆかり	R3.3.23	時空間特性を考慮した梅雨集中豪雨の気候変動将来予測と影響メカニズムに関する気象気候工学的研究	高 宇涵	R3.3.23	Estimation of Tourist Travel Patterns with Recursive Logit Models based on Wi-Fi Data with Kyoto City Case Study (Wi-Fiデータを用いた再帰的ロジットモデルによる観光行動パターンの推定に関する研究-京都市を例として-)
山本 浩大	R3.3.23	ASSESSMENT OF CLIMATE AND LAND USE CHANGE IMPACTS ON FLOOD INUNDATION IN A HUMID TROPICAL RIVER BASIN: A CASE STUDY OF SUMATRA ISLAND IN INDONESIA (気候変動と土地利用変化が湿潤熱帯流域の洪水氾濫に及ぼす影響評価:インドネシア国スマトラ島における事例研究)	沼尻 了俊	R3.3.23	日本における「新自由主義」支持に関する実証的心理学研究
YOUNGKYU KIM	R3.3.23	Analyzing Uncertainty in Probable Maximum Precipitation Estimation using the Moisture Maximization Method (湿度の最大化手法による可能最大降水量推定の不確実性分析)	木村 建貴	R3.3.23	微生物由来のシデロホアによる土壌中セシウムの除染に関する基礎的研究
Teerawat RAM-INDRA	R3.3.23	DEVELOPMENT OF BIAS CORRECTION METHOD FOR GCM RUNOFF DATA AND ITS APPLICATION TO THE UPPER CHAO PHRAYA RIVER BASIN IN THAILAND (GCM流出発生量データに対するバイアス補正手法の開発とそのタイ国チャオプラヤ川上流域への適用)	ZHANG YUYAO	R3.3.23	Simultaneous removal of H ₂ S and siloxane from biogas using a biotrickling filter (生物付着担体充填塔を用いたバイオガスからの硫化水素とシロキサンと同時に除去に関する研究)
藤木 峻	R3.3.23	日本沿岸の風波・うねり共存場を考慮した方向スペクトル標準形の提案	Maihani Binti Ismail	R3.3.23	PUBLIC HEALTH RISK BASED PRIORITIZATION OF HAZARDOUS AIR POLLUTANTS FROM INDUSTRIAL SOURCES : A CASE STUDY FOR A PETROLEUM REFINERY IN SOUTHEAST ASIA (産業起源有害大気汚染物質の公衆衛生リスクに基づく優先順位付け:東南アジアの石油精製所におけるケーススタディ)
CHAKRABORTY ANIRBAN	R3.3.23	Map Resolutions considering Data Uncertainty with Application to Seismic Microzonation (データの不確実性を考慮した解像度で描く地震ハザードマップ)	山口 武志	R3.3.23	琵琶湖・淀川水系における河川水中の蛍光性溶存態有機物の動態に及ぼす雨天時下水の簡易指標化に関する研究
Xiaolong Luo	R3.3.23	Natechs and Climate Change: Wide-scale Spatial Modeling of the Occurrence Probability and Variability of Tropical Storm-Related Natech Events in the United States Under Various Climate Scenarios (Natech災害と気候変動:多様な気候シナリオの下での米国における熱帯低気圧を引き金としたNatech事象の発生率と変動性に関する広範囲の空間モデリング)	山下 洋正	R3.3.23	災害時の下水処理機能確保のための計画手法に関する研究
坂井 一雄	R3.3.23	山岳トンネルの坑内傾斜計測による切羽前方地山予測に関する研究	Heping Liu	R3.3.23	Substance flow analysis of brominated flame retardants in vehicles (自動車由来の臭素系難燃剤の物質フロー分析)

[3] 母校だより

高橋 一彰	R3.3.23	ライフサイクル的観点からみた電気機器の化学物質管理	茅野 茂	R3.9.24	鋼板接着補強RC床版の弾性波法による劣化評価手法と合理的維持管理フローへの活用
LI CHENCHEN	R3.3.23	In situ biogas upgrading in anaerobic digestion of organic waste with hydrogen addition (有機性廃棄物の嫌気性消化への水素直接添加によるバイオガスの高品質化)	WINT THANDAR	R3.9.24	Performance of Weathering Steel Bridge under Atmospheric Corrosion in Myanmar (ミャンマーの大気腐食下における耐候性橋梁の性能評価)
佐藤 淳也	R3.3.23	アルミノシリケート硬化体中における重金属および放射性核種の固定化機構に関する研究	SAHARE ANURAG RAHUL	R3.9.24	Kinematic and inertial loading-based seismic assessment of pile foundations in liquefiable soil (液状化地盤における杭基礎の地盤変位・慣性力に基づく地震時挙動の評価)
竹村 学	R3.5.24	樹脂接着による鋼橋の補修・補強技術に関する研究	Xu Jiawei	R3.9.24	Evaluation of seepage and deformation of unsaturated slopes during post-shaking rainfall (地震後の降雨における不飽和斜面の浸透・変形の評価)
MUHAMMAD SOHAIB BAIG	R3.7.26	IMPACTS OF CLIMATE CHANGE ON THE QUANTITY AND TIMING OF RIVER FLOW IN THE UPPER INDUS BASIN, KARAKORAM-HIMALAYA, PAKISTAN (パキスタン国カラコルム・ヒマラヤ山脈インダス川上流域における河川流量と流出時期に及ぼす気候変動の影響)	Adapa Gautham	R3.9.24	Seismic response of embankment dams with different upstream conditions (ため池堤体の異なる貯水状態を考慮した地震時応答)
猪股 広典	R3.7.26	アンサンブル予測雨量を用いた洪水時ダム操作決定方法に関する研究	Tangjarusritaratorn Tanawat	R3.9.24	An implementation of soil particle transportation concept for internal erosion simulation and its application to vertical shaft construction (内部侵食シミュレーションのための土粒子輸送概念の実装と立坑掘削問題への適用)
川崎 順二	R3.9.24	個別要素法型群集行動モデルの高度化による水中避難行動シミュレータの開発に関する研究	肖 恩邦	R3.9.24	Eco-Geomorphological Evaluation of the Riverbed Changes of the Katsura River in Relation to Low-head Dam Removal (桂川の井堰撤去に伴う河床変化の生態地形学的評価)
Luis Enrique CHERO VALENCIA	R3.9.24	Development of a distributed sediment routing model for extreme rainfall-runoff events (極端な降雨流出事象を対象とする分布型土砂追跡モデルの開発)	Md Basir ZISAN	R3.9.24	Assessment of Seismic Protection Effectiveness of Unbonded Scrap Tire Rubber Pad Base Isolation Using Finite Element Analysis (有限要素解析によるアンボンド廃タイヤゴムパッド免震構造の耐震性の評価)
Thatkiat Meema	R3.9.24	Development of an integrated reservoir-hydropower-hydrologic model in tropical climate basins and its application to reservoir operation assessment under climate change and real-time optimization (熱帯気候流域における貯水池-水力発電-水文統合モデルの開発と気候変動下の貯水池運用評価および実時間最適化への応用)	UTTAJUG ATHICHA	R3.9.24	Health impacts of particulate matter from vegetation fire events and regulatory intervention for smoke haze control in Upper Northern Thailand (タイ北部における野焼き由来の粒子状物質、および煙霧コントロールのための規制介入の健康インパクト)
DING Can	R3.9.24	Study on Sedimentation Due to Fluvial Inundation Flow Considering Paddy Field Topography (水田地形を考慮した洪水氾濫流による土砂堆積に関する研究)	PAOIN KANAWAT	R3.9.24	Investigation on the effects of air pollution on cardiovascular disease risk factors using epidemiological approaches: A longitudinal cohort studies in Thailand (疫学アプローチを用いた大気汚染の循環器疾患リスクファクターに対する影響の研究: タイにおける縦断コホート研究)
奥出 信博	R3.9.24	Rayleigh波の伝播特性を利用したコンクリートのひび割れ補修材の充填評価に関する研究	Haochen Dong	R3.9.24	Site Risk Assessment Based on Metal (loid) Fractionation Dynamics (金属/半金属の形態ダイナミクスに基づくサイトリスクアセスメント)
Audrius Sabūnas	R3.9.24	An impact assessment of compounding sea level rise and storm surge effects on small island states in Oceania: A case study on present and future vulnerabilities and their impacts on local populations (海面上昇及び高潮の複合効果によるオセアニア小島嶼開発途上国への影響評価: 現在及び将来気候による地域人口における脆弱性及び影響に関するケーススタディ)			
呂 祚観	R3.9.24	Freak Wave Analysis in High-Order Weak Non-linear Wave Interaction with Bottom Topography Change (海底面の変化に伴う高次弱非線形波相互作用におけるフリークウェーブの解析)			

- | | | |
|----------------------------------|---------|--|
| 糞 雨 | R3.9.24 | Health risk assessment of heavy metal/metalloid exposure through multiple foods in China and the validation of a novel biomarker for dietary exposure
(中国における複数の食品からの重金属/半金属曝露の健康リスク評価と新たな経口曝露バイオマーカーの妥当性検証) |
| FAJRI MULYA
IRESHA | R3.9.24 | EVALUATION OF DISPOSAL SITES CONDITION AND RISK ASSESSMENT OF HEAVY METALS INVOLVING THE RESIDENTS AROUND A CLOSED DUMPSITE IN INDONESIA
(インドネシアにおける埋立地条件の評価と閉鎖投棄場周辺住民に関係した重金属リスクアセスメント) |
| 本間 亮介 | R3.9.24 | 下水処理水中の残留医薬品類を対象としたUV/TiO ₂ 層/セラミック平膜ろ過の処理特性に関する研究 |
| MANISHA
MAHARJAN | R3.9.24 | EFFECT OF CLIMATE CHANGE ON PRECIPITATION IN NEPAL AND KANSAI AREA IN JAPAN, AND ON WATER QUALITY OF OSAKA BAY AREA
(気候変動がネパールと日本の関西地区における降雨および大阪湾水質へ及ぼす影響) |
| Khagendra
Pralhad
Bharambe | R3.9.24 | Spatiotemporal modeling of climate change impact on hydro-meteorological risk under a large ensemble d4pdf future warming scenarios : an implication for agriculture risk over Godavari River Basin, India
(時空間モデルを用いた気候変動予測と将来シナリオにおける水文気象学的リスクの評価～インドのGodavari川流域を対象として～) |
| (論文博士)
吉田 卓弥 | R3.3.23 | 家電リサイクルプラントの特性解析・評価手法の研究 |

(4) 学生の進学・就職状況

令和2年度の大学院および学部学生の進学就職状況は次の通りである。(R3.10.1)

(尚、各学科専攻長報告の数と若干相違有)

	大 学 院		大 学 院		学 部	
	(博 士)		(修 士)		(4 回生)	
博士課程			社基 都社 都環 学舎 情報	7 6 6 2 2		
修士課程					地球	125
研究生・その他 (他大学)	社基 都社 都環 学舎 情報	5 5 6 1 2	都社 学舎	1 1	地球	5
国土交通省			社基 都社	5 3		
環境省	都環	1				
経済産業省			社基	1		
独立行政法人			社基	1		
都道府県	都社	1	情報	1	地球	1
市町村	学舎	1	都環	1	地球	1
各種外郭団体・ 地方公社	都社 都環	2 2	都社	3		
道路	学舎	1	社基 都社 情報	4 3 1		
電力・ガス・水道			社基 都社	9 2		
鉄道・航空	社基	1	社基 都社 情報	5 4 1	地球	1
建設会社	社基 学舎	1 1	社基 都社 都環 学舎 情報	6 5 1 2 1	地球	1
鉄鋼・鉄構・機械・ 電機・電子	都社 都環	1 1	社基 都社 都環 学舎	4 5 9 1	地球	5
コンサルタント	社基 都社 学舎	1 1 1	社基 都社 都環 学舎	6 6 4 1	地球	1
銀行・商社・ 証券・保険			社基 都社	2 5	地球	3
不動産			都社 都環	2 1	地球	1
環境産業			都環 学舎	3 1		

	大 学 院		大 学 院		学 部	
	(博 士)		(修 士)		(4 回生)	
シンクタンク			社基 都社	1 3	地球	1
情報通信			社基 都社 情報	3 1 1		
サービス業・ その他	社基 都社 都環 学舎 情報	2 8 8 1 1	社基 都社 都環 学舎 情報 エネ科	16 6 12 5 4 4	地球	10
合計	社基 都社 都環 学舎 情報	10 18 18 6 3	社基 都社 都環 学舎 情報 エネ科	70 55 37 13 11 4	地球	155
		55		190		155

(5) 国際コースと留学生

工学研究科では、博士後期課程への留学希望者の増加に応じて多くの留学生を受け入れてきたが、教育指導は基本的に日本語を用いて行われているため、優秀な学生でも言語の障壁のため本研究科への応募を躊躇することが数多くあった。このような問題に対応するため、平成13年度から平成24年度まで英語のみを使用する博士後期課程総合工学特別コースが実施された。さらに、社会基盤工学専攻・都市社会工学専攻では修士課程を対象とする国際コースを平成23年4月から、工学部地球工学科では学部生を対象とする国際コースを平成23年4月から開設している。